

俳句

薫風

湯本明子

啓蟄や辞書に這はせし虫めがね

裏木戸をお通し下され女郎蜘蛛

春の雲掬ひ取るかに綿菓子屋

宿の秋紙燭のうるむ廊長し

ミモザ咲くタンゴ踊りし日もありて

草紅葉明日香は謎の石多き

鷺草の吹かれて片羽痛めけり

爪立ちて保母に耳打ち冬うらら

駅舎出でさて薫風の旅はじめ

新蕎麦の黒き齒ごたへ漱石忌